

中宇治地域 市民協働推進拠点

中宇治の コミュニティ・リビング ワークショップ



vol.1 市民協働推進拠点に ふさわしい施設を考える

中宇治地域の新たなまちづくりの拠点整備を、市民協働によって進めるため、今回から全3回にわたってワークショップを行います。第1回目となる今回は、「市民協働推進拠点にふさわしい施設を考える」をテーマとし、UDCUの代表理事を務める森正美さんによる話題提供の後、5つのグループに分かれてグループワークを行いました。

【自分たちでつくる】

森さんの話題提供では、中宇治地域が抱える課題とその解決のためにこれまで行われてきた取り組みが紹介されました。大きな課題としてあげられたのは、

少子高齢化と地域のつながりの希薄化です。近年は自治会への加入率が大きく減少し、昔ながらの地域のお祭りも開催が困難だという声がたくさんあがっています。このような状況から、旧来の地域のつながりだけでなく、自宅や学校、職場の他にも「第三の場所＝サードプレイス」として、人々の交流拠点となり、一人ひとりが居心地のいい場所をつくっていく必要があるといいます。そのような拠点をつくる活動として、まち全体を“にわ”に見立て、そのつながりを考えながらまちの魅力を再発見し、人のつながりや活動のヒントを得るための「まちにわワークショップ」や、人々が集いつながる空

2024年7月27日(土)
15:00～17:00
会場：ゆめりあうじ

間づくりをサポートする「まちのリビング」などの事業が行われており、こういった活動が少しずつ地域に広がってきていくとの紹介がありました。また、このような活動において大事なことは、行政だけに任せることではなく、公民連携や市民協働によって、自分たちが望むものを自分たちでつくっていくという意識だとのお話があり、参加者の皆さんも今回のワークショップを取り組むにあたって、改めて当事者としての意識が高まったよう思います。

【あってほしい空間・場所】

グループワークの前半では、昨年度策定した『中宇治地域市民協働推進拠点基本ビジョン』に示されている、「出会いと自由な憩いの場」「子育て支援の場」「多世代交流の場」「趣味・遊び・学びの場」の4つの機能ごとに、それぞれどんなことができる空間や場所があつたらいいか、アイデアを出し合いました。今回は異なる多様な世代の参加者によってワークショップを行い、それぞれの立場から



	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4	グループ5
出会いと 自由な憩いの場	・水遊びができる場所	・シェア菜園	芝生の広場 / 食事のできる場所 地域や観光の情報センター	・水遊びができる場所	・ドッグラン
子育て支援の場		・子ども食堂	自習スペース / フリースクール	・駄菓子屋	・託児スペース ・親の交流スペース
多世代交流の場	・和室(茶道や華道) ・フリースペース	・サークル活動室	多目的スペース(ステージ・可動式の間仕切り)	・教室が開ける場所	・教室が開ける場所 ・フリースペース
趣味・遊び・ 学びの場	図書コーナー ・運動スペース	・リハビリや体力作り 音楽スタジオ	図書コーナー シェアキッチン	・アスレチックジム ・ポール遊びスペース	
その他	・駐車場 ・駐輪場	・レンタサイクル ステーション	・駐車場 ・駐輪場		

様々な意見があがりました。自分が利用するならこんな場所がいいといった、自身の環境や経験を踏まえたアイデアが多かったことが印象的でした。後半は前半で出たアイデアを、拠点として整備する予定の菟道ふれあいセンターの空間に具体的に落とし込むため、周辺の環境の特徴について確認したのち、その立地環境を活かして拠点施設としてふさわしいスペースやコーナーを考えました。

[場所に落とし込む]

菟道ふれあいセンターの周辺環境としては、入り組んでいて場所が分かりづらい、道が狭いといった立地のデメリットがあがった一方、周辺が住宅街であること、商店街に近いことなどから、買い物や学校帰りにふらっと立ち寄りやすいというメリットがあがりました。また、交通量が少なく民家も多いから子どもが遊びには安全という意見や、観光客は入ってきにくいという昨今の中宇治地域ならではの観点もありました。

具体的に拠点施設にふさわしいスペースとして全グループで共通していた

のは、大きな多目的スペースで、可動式の間仕切りなどを用いて人数や用途に合わせて使える空間にしたいという意見でした。また、中庭や芝生広場、水遊びができる場所など、開けた子どもたちの遊び場とともに多世代が交流できる場として屋外の空間アイデアも共通してあがっていました。他にも、小中学生の自習スペースというアイデアに関連して、若い世代からはフリー Wi-Fi が必要だという声もあり、設備や機能に関する意見も含め多岐にわたる議論が行われていました。また、観光客や初めての人には場所がわかりづらいという課題から、観光ツアーアの起点にすることや地域の情報発信の場とするなど、地域の人だけでなく観光客も巻き込みながら利用できる場所になるといいという意見も出されました。全体として世代や属性を問わず、より気軽にふらっと訪れることができる場が求められているようでした。

ワークショップの最後には森さんから「当事者としての気持ちで望んでいて、どのグループも楽しそうに話していたのがよかったです」との講評がありました。今



回は初めてのワークショップということもあり、最初のうちは緊張感もありましたが、徐々に打ち解け、お互いに話しながら新しい意見が生まれていく様子を見てとれました。また、世代を超えてそれぞれの考え方につれていい機会になったのではないかでしょうか。次回は「市民協働推進拠点に場所とかたちを与える」をテーマに、今回出たアイデアを実際に菟道ふれあいセンターの敷地にどのように配置していくのかを考えます。

次回のワークショップ予定

9/15(日) 15:00 ~ 17:00

市民協働推進拠点に 場所とかたちを与える

中宇治のコミュニティ・リビング
ワークショップ

主催：宇治市
アーバンデザインセンター宇治

発行：2024年8月13日

